

令和8年度

ふくしの心

小学生向け福祉副読本



大 分 市
大分市社会福祉協議会



学校名	
学年・組	5年組
	6年組
名前	

はじめに

わたしたちの周りには、さまざまな人々が生活しています。

その中には、赤ちゃんや高齢者、健康な人や病気の人、障がいのある人たちがいます。

みんなが幸せに暮らせるまちは、だれもが生きがいを持ち、安心して快適に、共に生活できる住みよいまちです。

それは、心と心のふれ合う、思いやりとやさしさにあふれるまちでもあります。

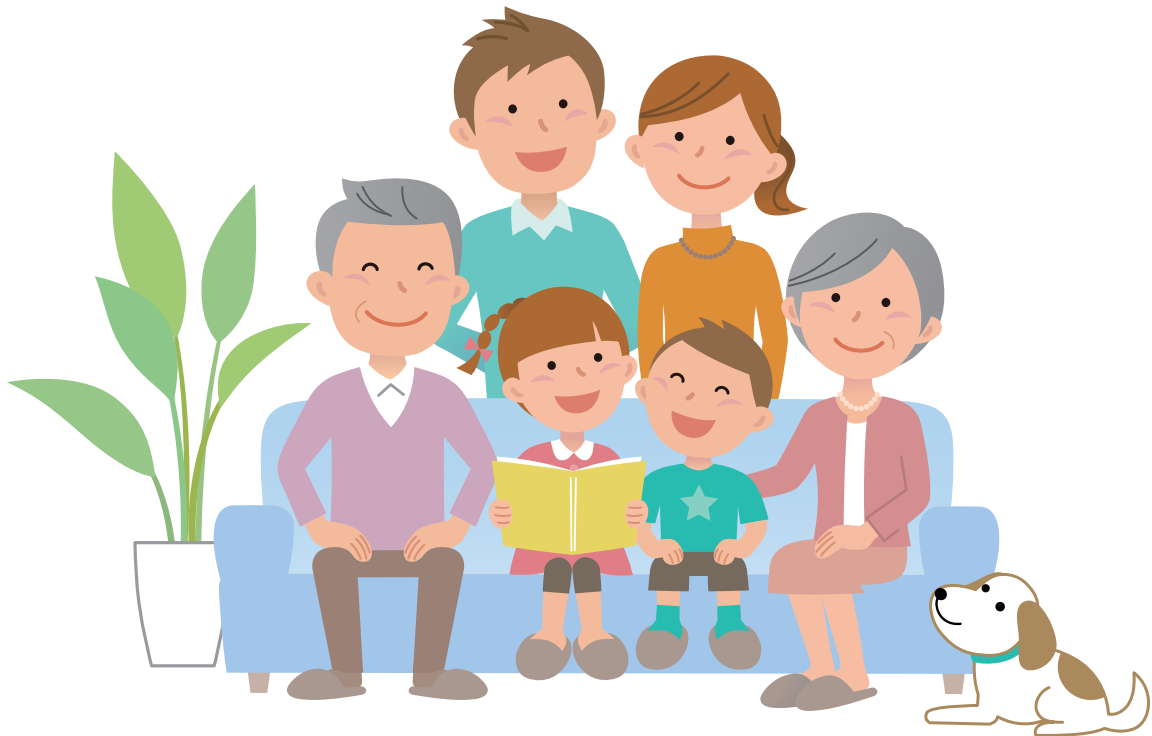
そんなまちにするためには、家庭や学校、地域の中で、みんながおたがいに助け合い、支え合い、はげまし合い、共に協力し合っていくことが大切です。

わたしたち一人ひとりが、どんな気持ちで、どのように行動したらみんなが幸せになることができるのか、いっしょに考えてみましょう。

もくじ

1. 明るい家庭 1
2. 高齢者と共に 7
3. 障がいをこえて 15
4. わたしたちにできること 23
5. 福祉ってなんだろう 31

1 明るい家庭



1 よりよい家庭を願って

家庭とは、生活のもとになる場であり、家族みんなのいこいの場です。なんでも話し合い、おたがいが深い愛情や信頼あいじょう しんらいで結ばれることが大切です。

お父さんのお話

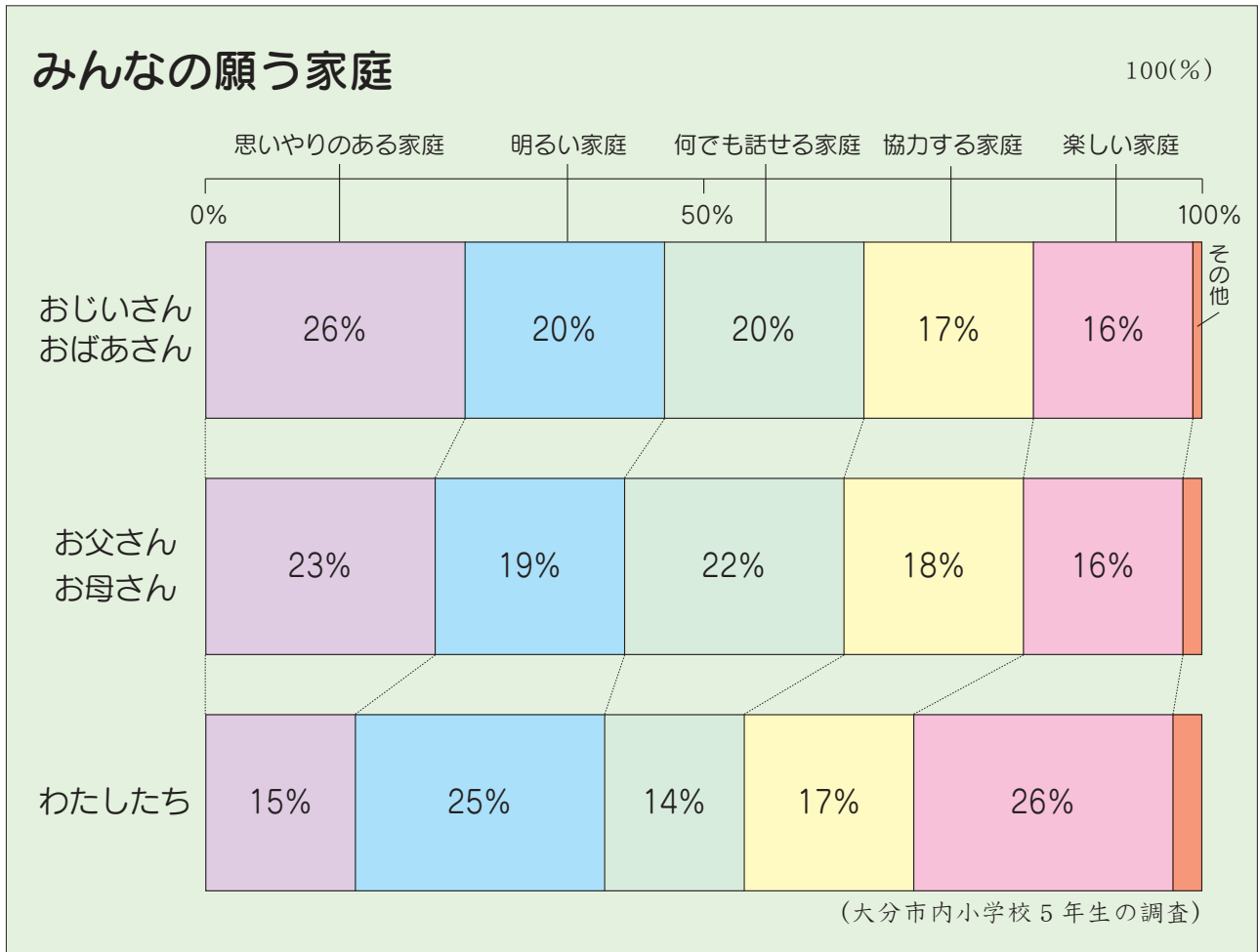
家族のみんながいつまでも健康で安心して暮らせることがわたしの願いです。そして、家族の一人ひとりが、思いやりの心をもって助け合える家庭になったらいいなと思っています。それには、良かったこと、困こまったことなど、なんでも話せる明るい家庭になるように努力しなければなりません。

家族みんなが協力すれば、どんなにつらいことも乗り越えていけそうです。



みんなの願い

家族のみんなは、どんな家庭を願っているのでしょうか。大分市内の小学校で次のような調査をしました。



わたしたちが願っている楽しい家庭や明るい家庭は、「思いやりの心」が基本になればならないのではないのでしょうか。家族のみんなが、おたがいを思いやることで、明るく楽しい家庭がつけられていきます。



あなたは、どんな家庭を願っていますか。おうちの人はどうでしょうか。

大分市社会福祉協議会
マスコットキャラクター
「ふくしのピロロちゃん」

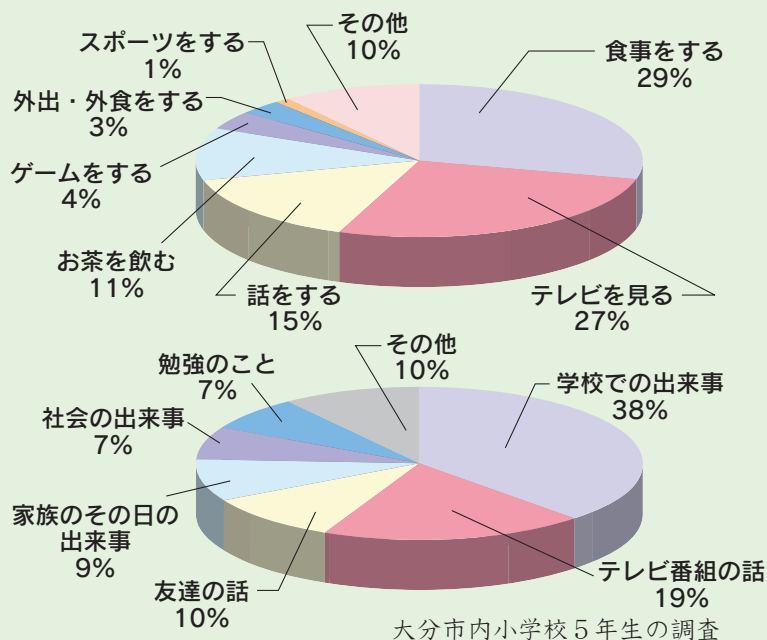
家族のだんらん

家族のみんなが集まってなごやかに過ごすことで、心のやすらぎが生まれ、温かい家庭ができてきます。

だんらんのようす

家族でよくいっしょにすることはどんなことですか。

家族でよく話すことはどんなことですか。



家庭の日



●親子走り方教室
(植田公民館「家庭の日推進事業」)



●親子陶芸教室
(大分西部公民館「家庭の日推進事業」)

大分県では毎月第3日曜日を「家庭の日」と定めて、家族のふれ合いを大切にする取組をしています。



あなたの家庭では、「家庭の日」をどのように過ごしていますか。

2 家族の助け合い

明るく楽しい家庭を築^{きず}いていくには、家族みんなが協力し、おたがいに助け合っていくことが大切です。

働くお父さんやお母さんのお話

仕事をして帰ると、一番にすることは、夕食の用意です。外の仕事でとてもつかれているので、少し休みたいけど、家族のみんなのために夕食の用意をします。

他にもする家庭の仕事は多いけど、子どもたちが、洗^{せん}たく物を取り入れてたたんだり、食器洗いをしてくれたりしています。



毎日、仕事はいそがしいけれど、家族のみんなが、家庭の仕事をしてくれるので助かっています。

家庭の仕事で、特にそうじなど日ごろでできないところは、家族全員がそろそろ休みの日にします。みんなが協力してくれるので、早く終わり、とてもうれしいです。

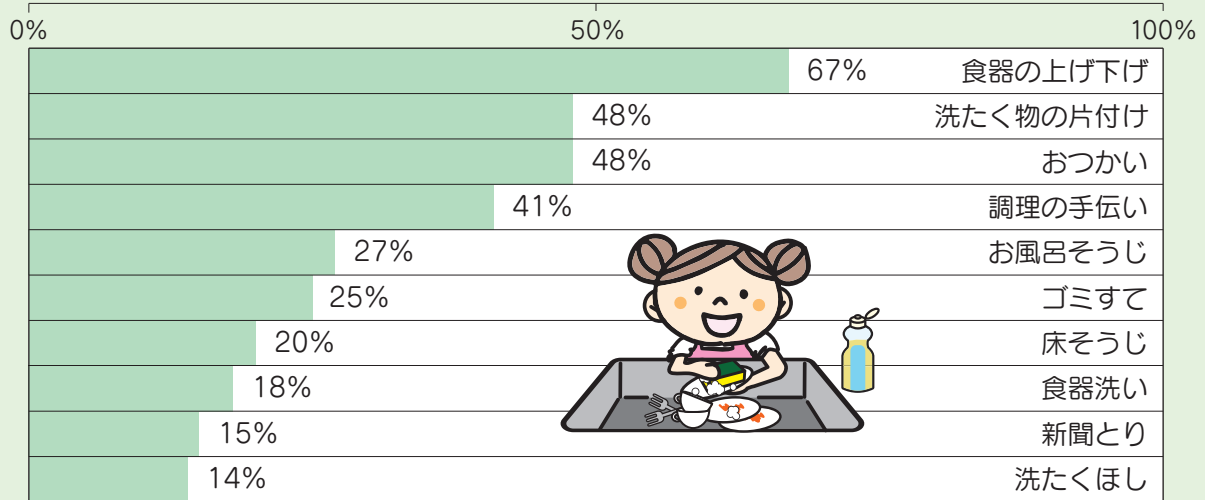
家族の役割^{やくわり}

わたしたちは、家族の一員として、おたがいの立場や役割を知り、家庭の仕事を分担^{ぶんたん}しています。自分ができることは、進んでチャレンジしてみましよう。

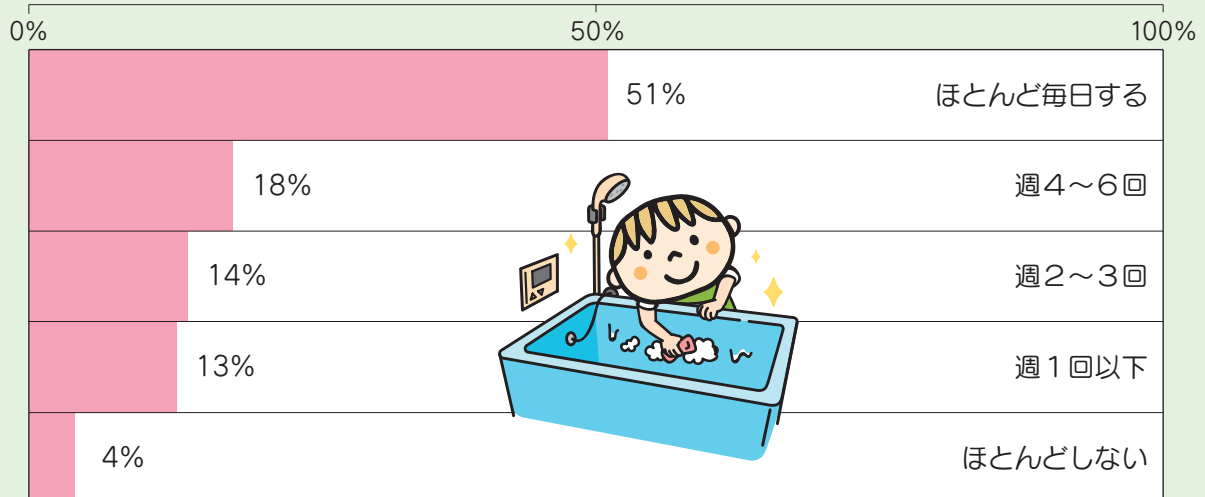
小学生の家庭の仕事

(大分市内小学校5年生の調査)

★どんな家庭の仕事をしていますか



★あなたはどれくらい家庭の仕事をしていますか



家庭の仕事をしている人が多いですね。

家族の役割やくわりや家庭の仕事の分担ぶんたんについて考え、自分にできる仕事を見つけ、進んで実行しましょう。



自分にできる仕事を見つけましょう。

3 わたしと家族

家庭でのそれぞれの役割^{やくわり}を考えることが、家族のつながりをよりいっそう深め、明るい家庭^{きず}を築くことになります。

お父さんとお母さん

小2 作文

ぼくのお父さんとお母さんは、耳が聞こえません。小さいときぼくは、「ママ、パパ、どうしてぼくの声が聞こえないの?」と思いました。聞こえないから、「こわいかな?」とも、思いました。

お父さんとお母さんは、手話で話します。ぼくはあんまり手話できません。だから、ぼくの言っていることがわかっているかどうかふあんになります。

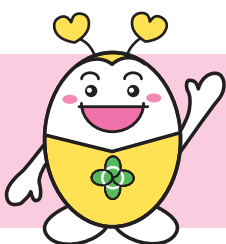
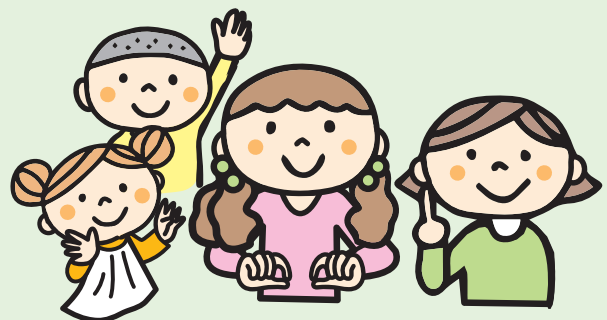
れんらくちょうに、わすれもののことを書いて、「これなに?」って言われたから、手話で言ったけど、わかってくれなかったのでふあんでした。

ぼくは小さいころ、手話できませんでした。A 兄ちゃんが、いっしょに、手話をしてくれました。

一年生のとき、A 兄ちゃんから、手話を教えてもらいました。あそび、しゅくだい、おかし、ごはん、おはよう、かい物、しごと、じてんしゃが言えるようになりました。手話ができるようになってうれしかったです。

これからもたくさん手話をおぼえたいです。お父さんとお母さんのために、手話つうやくをしてあげたいです。

お父さんやお母さんのともだちも、耳が聞こえません。その人たちともなかよくなりたいから、もっと手話をおぼえていきたいです。



自分の家族を見つめて、明るい家庭をつくるために、あなたはこれから先どんなことができますか。

2 こうれいしや 高齢者と共に



●大分市健康生きがい賞

1 社会につくした高齢者

敬老の日

9月の第3月曜日は「敬老の日」です。長い間、社会のためにつくしてきた高齢者を敬うやまい、長寿ちょうじゆをお祝いする日です。

大分市では、社会奉仕活動など地域で活躍されている高齢者の表彰を行っています。また、市長が最高さいこうれいしや齢者を祝福訪問しゆくふくほうもんして、お祝いをしています。

高齢者に学ぶ



●もうすぐ完成だよ わらじづくり



●うまいなあ リム回し



●どこにあるのかな カルタとり

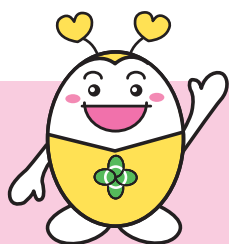


●かわいくなってきた お手玉づくり



●米作りはたいへんだね

高齢者とのふれ合いを通して、豊かな経験やちえ^{けいけん}を学びましょう。



あなたはこれまでに、高齢者とのふれ合いを通して、どんなことを学んできましたか。

2 増える高齢者

日本国民の平均寿命は、男性が81.09歳（世界第6位）、女性が87.13歳（世界第1位）であり、世界でもトップクラスの長寿国です。（厚生労働省 令和6年簡易生命表）

また、65歳以上の高齢者は3,624万人と増え続けており、総人口に占める高齢者の割合（高齢化率）は29.3%に達しています。

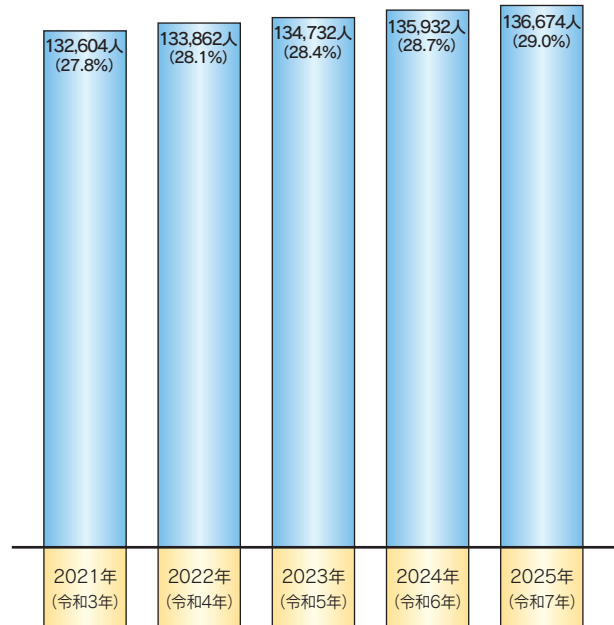
（厚生労働省 令和7年版高齢社会白書）

大分市の高齢者は、令和7年9月末時点で136,674人、高齢化率は29.0%です。全国と同様に高齢者が増え続けています。

市内には男性41名、女性382名、合わせて423名の100歳以上の方がいます。その中で最高齢の方の年齢は109歳です。

（令和7年9月1日現在）

●大分市の65歳以上の高齢者の数
および総人口との割合



（各年9月末日現在）

（令和7年9月1日現在 大分市総務課HPより）

年齢 (各歳)	大分市計		
	計	男	女
総数	471,110	226,797	2,443,313
65歳	5,504	2,599	2,905
66歳	5,995	2,803	3,192
67歳	5,620	2,596	3,024
68歳	5,562	2,631	2,931
69歳	6,086	2,822	3,264
70歳	5,964	2,729	3,235
71歳	5,842	2,706	3,136
72歳	6,376	2,953	3,423
73歳	6,356	2,955	3,401
74歳	6,731	3,039	3,692
75歳	6,799	3,110	3,689
76歳	7,471	3,352	4,119
77歳	7,158	3,229	3,929
78歳	6,416	2,857	3,559
79歳	3,955	1,706	2,249
80歳	4,046	1,721	2,325
81歳	4,619	1,929	2,690
82歳	4,230	1,769	2,461
83歳	4,218	1,733	2,485
84歳	3,921	1,621	2,300
85歳	3,234	1,300	1,934
86歳	2,734	1,022	1,712
87歳	2,633	1,009	1,624
88歳	2,628	903	1,725
89歳	2,184	703	1,481
90歳	2,009	625	1,384
91歳	1,751	517	1,234
92歳	1,562	464	1,098
93歳	1,222	355	867
94歳	1,039	258	781
95歳	745	158	587
96歳	672	154	518
97歳	429	87	342
98歳	334	58	276
99歳	220	39	181
100歳	135	15	120
101歳～	274	22	252
65歳以上	136,674	58,549	78,125

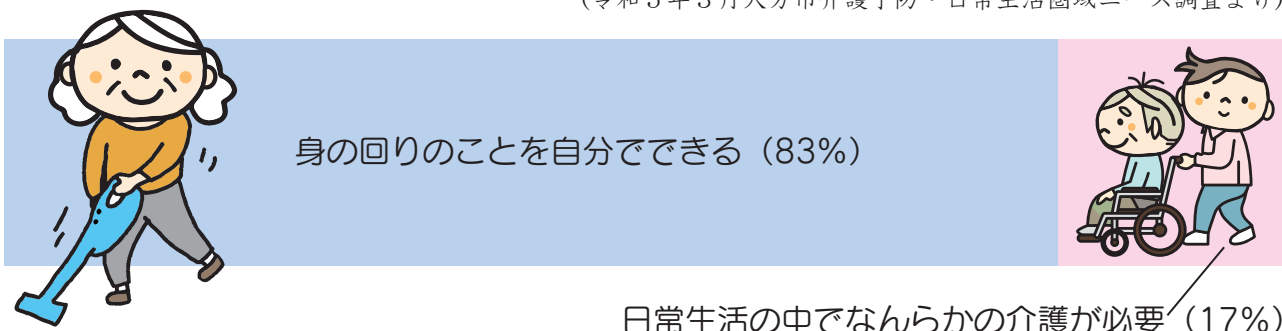
3 こうれいしゃく 高齢者の暮らし

高齢者の生活

健康で、明るく、楽しく、できるだけ長生きしたいというのは、みんなの願いです。

高齢者の生活について調べてみました。

(令和5年3月大分市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査より)



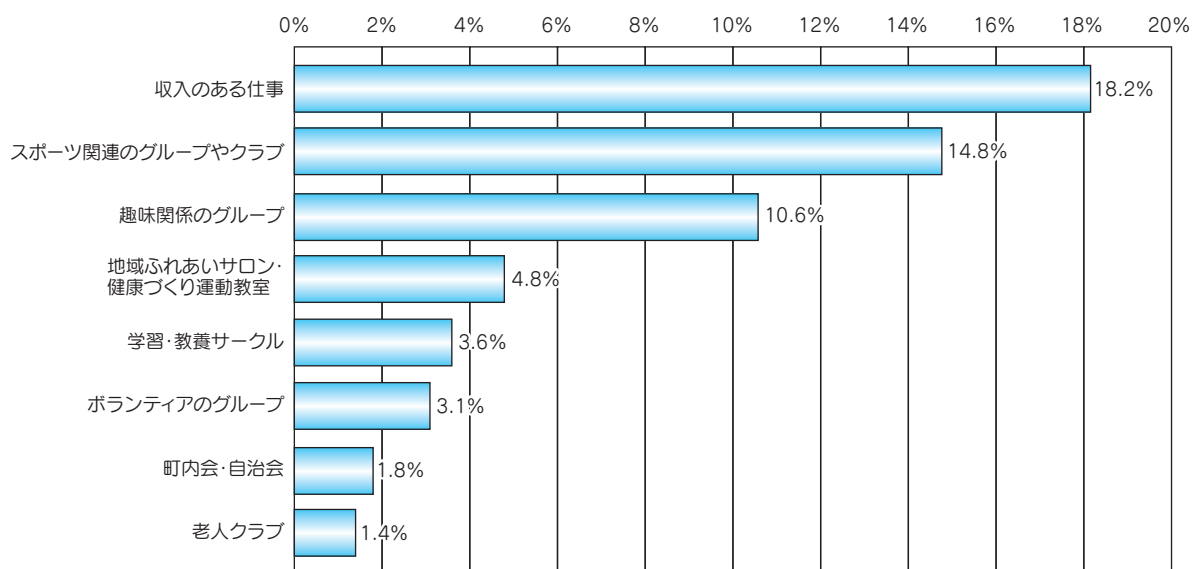
高齢者の生きがい

高齢者の多くは、元気に日常生活を送っています。高齢者は、どんなことに楽しみや生きがいを感じながら、活動に参加（参加希望）しているのでしょうか。

●高齢者の地域での活動について

活動への週1回以上の参加状況

(令和5年3月大分市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査より)



●働く喜び



●せんてい作業

●しゅみを活かす



●スポーツ活動

●仲間と共に

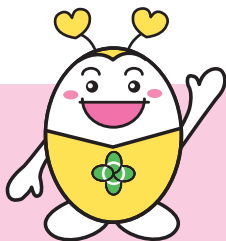


●グラウンドゴルフ大会

●楽しく活動



●歌声サロン



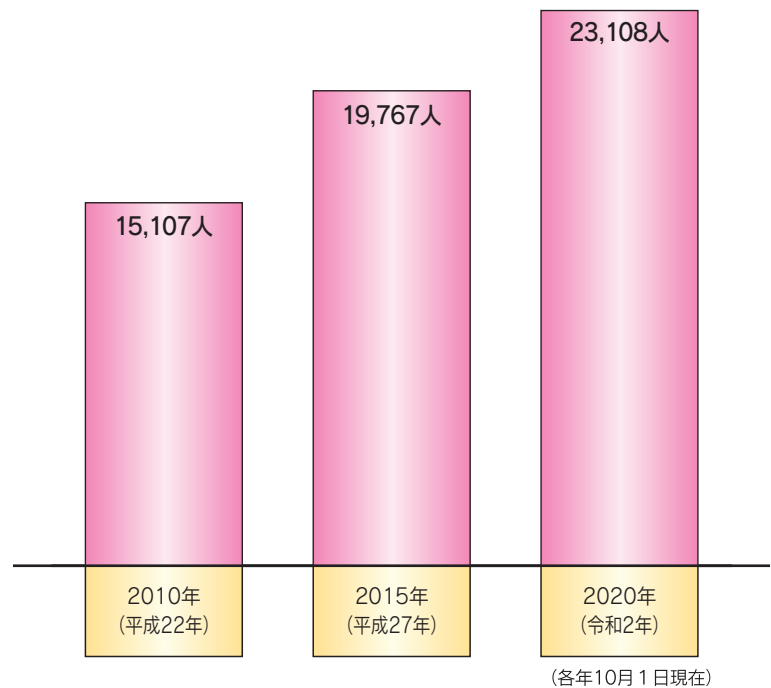
高齢者に、楽しみにしていることや生きがいを感じていることについてたずねてみましょう。

ひとり暮らしの高齢者

高齢者の中には、ひとりで暮らしている人もいます。ひとり暮らしの高齢者は、年々増えていきます。

ひとり暮らしの高齢者は、どんなことを楽しみにしているのでしょうか。また、心配なことや困っていることはないのでしょうか。

●大分市のひとり暮らしの高齢者の数（65歳以上）



ひとり暮らしのおばあさんのお話

年をとり、ひとりだと、夜、急に病気にならないかと不安です。友人は、「ヘルパーさんのおかげで、ひとり暮らしが続けられ助かる。」と言っていますが、先のことを考えると心配は多いです。

でも、孫たちが遊びに来て、わたしの作ったものを「おいしい。」と言って食べてくれるときはとても幸せです。孫たちのすこやかに成長していく姿を見るのが楽しみで、自分もがんばらなくてはとほげまされます。

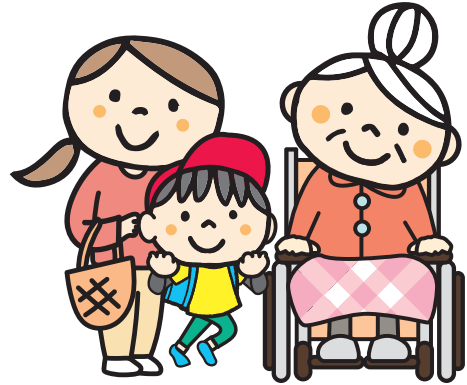
また、友人とおんせんに行ったり、作った野菜や料理を食べながらおしゃべりをしたりするのも楽しみの一つにしています。



介護保険制度

超高齢社会をむかえ、元気に暮らしている高齢者が多くなってきましたが、中には、身体具合が悪くなり、食事、入浴、排せつなどの日常生活で、身の回りの世話や手助けが必要な高齢者も多くなっています。

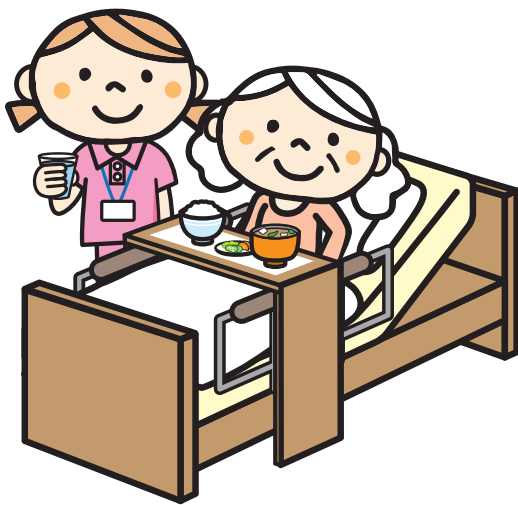
この世話や手助けをすることを「介護」といいます。高齢者が介護を受けながら、家庭や住み慣れた地域で安心して暮らしていけるようにすることが大切です。



以前は介護をするのは主に家族の人で、その多くは女性でした。中には、介護をする人が高齢者の場合もあり、大きな負担になることが問題となっていました。

そこで、このような介護の負担を軽くするために、平成12年4月から、みんながおたがいに助け合って介護に必要なお金を出し合い、そのお金で必要な人が「介護サービス」を受けられるようにする「介護保険制度」が実施されるようになりました。

介護のために出し合うお金を「保険料」といい、40歳以上の人が支払います。保険料は最終的に市町村に集められて介護サービスを必要とする人のために使われています。



介護サービスには、ホームヘルパーや看護師などに家に来てもらったり、または、本人が家から施設に通ったりしてサービスを受ける「居宅サービス」と、本人が特別養護老人ホームや介護のための病院などの施設に入って介護を受ける「施設サービス」があります。

介護が必要な高齢者

高齢者の中には、食事・入浴・排泄などについて介護が必要な人がいます。これらの人は、自宅で家族やヘルパーの支援を受けたり、老人ホームで職員の支援を受けながら生活しています。



家族の人のお話

毎日、身の回りの世話で、いそがしくて大変です。

でも、ヘルパーさんが来てくれたり、移動入浴車が来てくれたりする日は、とても助かります。



●お風呂はとってもいい気持ち



●お話できてうれしいよ

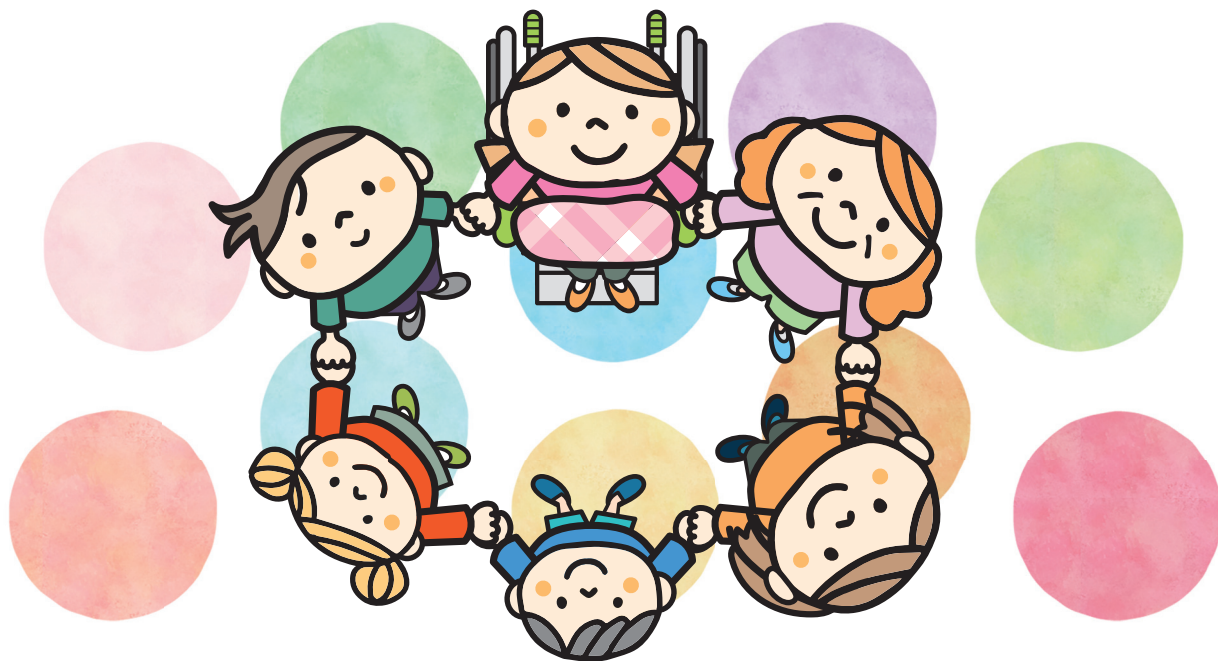
特別養護老人ホームの 高齢者のお話

お風呂に入れてもらったり、みんなといっしょに食事をしたりして楽しく過ごしています。子どもさんやボランティアの人がホームに来てくれてお話をするときが楽しみです。



ひとり暮らしや介護が必要な人のために、わたしたちにどんなことができるのでしょうか。考えを書いてみましょう。

3 しょう障がいをこえて



1 障がいのある人への思いやり

みんな同じ仲間

わたしたちのまちには、子どもやおと
こうれいしゃ
なや高齢者、男の人や女の人などいろい
ろな人々が暮らしています。

しかし、わたしたちのだれもが、心身
ともにすこやかに生まれ、育っていくわ
けではありません。中には、目や耳、手
や足などに障がいのある人もいます。

障がいは、生まれる前や生まれてから
の病気やけが、あるいは交通事故などい
ろいろな原因げんいんによって起きます。

●障がいのある人の数

(令和7年4月1日現在)

目 障がいのある人	1,137人
耳や口 障がいのある人	1,892人
手や足 障がいのある人	10,874人
心臓やじん臓など に障がいのある人	6,241人
知的障がい のある人	5,115人
精神障がい のある人	6,619人

(大分市福祉事務所障害福祉課調べ)

また、原因が全く分からない場合もあります。

障がいのある人もない人も、みんな同じ仲間として、おたがいに支え合っ
て暮らしていくことが大切です。

お母さんの願い



わたしは、自閉症傾向のある子どもの母親です。親としてのわたしの願いは、子どもに友だちができることです。そして、社会に出てからも、人とかかわり合いながら過ごしていけるようになることです。

「自閉症」は、今でも原因や治療法が見つかっていない生まれつきの脳の障がいだといわれています。でも、心はみんなと同じようにうれしかったり、悲しかったりします。その気持ちをうまく話せないのも、みんなに伝わりにくいのです。そのため誤解されることがあり、それがきっかけでいじめにあっ

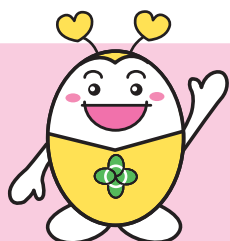
てしまうこともあります。

みんなとちがうところは、その子の個性だと思ってほしいのです。けれども、その個性は、自分勝手に見えたり、知らないうちに相手を傷つけてしまったりすることも少なくありません。

いっしょに何かをするときは、その仕方を簡単なわかりやすい言葉で教えてください。たとえば、「今は、すわりましょう。」「今から手を洗いましょう。」など、今は何をしないといけないかをはっきり教えてあげてください。また、「そうじのときは、長い時計の針が6から10になる間に、中央線の所から窓の所まで全部ふいてね。」など、目で見てすぐにわかる方法はとても効果があります。

みんなと少しちがうけれど、つきあい方さえわかればすぐに友だちになれるのです。個性が強いだけで、みんなと同じなのです。

どうか「自閉症」も個性だと思ってつきあってみてください。

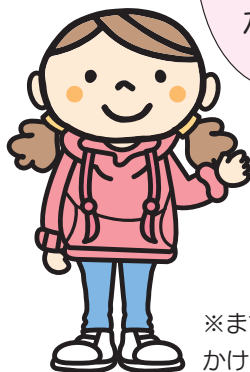
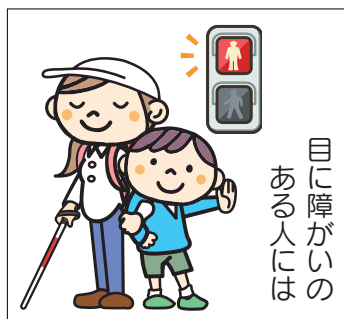
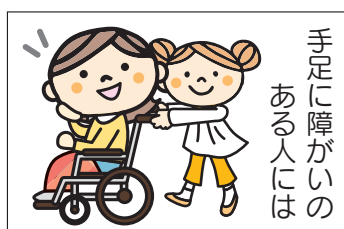


障がいのある人とお友だちになるためには、わたしたちはどんな接し方をすればいいと思いますか。考えを書きましょう。

思いやりの心

障がいのある人も、一人ひとりが頑張って生活しています。でも、みんなと同じようにはできないこともあります。学校やまちで困っている人を見かけたら進んで手助けをしましょう。

●体に障がいのある人への手助け



何かお手伝い
しましょうか。

※まず、声を
かけましょう。



●ヘルプマークを知っていますか

義足の方など、外見からは分からなくても手助けや気遣いを必要としている人が、周囲の人に気遣いを必要としていることを知らせることで、手助けを得やすくなるように作成されたマークです。



●もうどうけん 盲導犬 (目に障がいのある人の目となってゆうどうしてくれる犬)

人にほえたり、かみついたりしないように、^{きび}厳しい訓練を受けています。かわいくても、声をかけたり、手を出したり、食べ物をやったりしてはいけません。ハーネス (人と盲導犬をつなぐ器具) をつけているときは仕事中なのです。



●盲導犬とのふれあい学習

● 盲導犬のほかに ^{ちょうどうけん} 聴導犬 (耳に障がいのある人に音を知らせる犬)、^{かいじょけん} 介助犬 (手や足など体に障がいのある人の生活の手助けをする犬) があります。これらを合わせて、^{ほじょけん} 補助犬といいます。

2 障がいを乗り越えて

わかりあう心

体に障がいのある子どもや体の弱い子ども、知的障がいなどのある子どもたちのための学校や学級があります。将来、自分の力で生活できるように、障がいの状態に^{じょうたい}応じて^{おう}訓練や勉強にはげんでいます。

くじけない妹

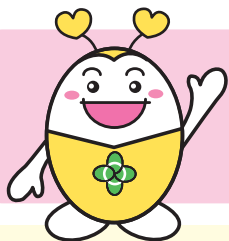
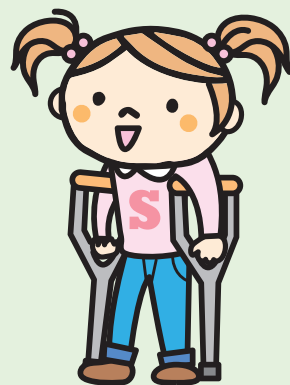
児童作文

ぼくの妹は、生まれてすぐせきずいの手術^{しゅじゅつ}をしました。そのため、足にマヒがあり^{そうぐ}装具をつけて生活をしています。装具をつけると、ひざを曲げて歩けないため、1年生のころは他のクラスの子や上級生に「ロボット。ロボット。」と、よくからかわれていました。妹は、家でよくくやしがっていましたが、泣くことはありませんでした。ぼくは、妹はすごいなと思いました。

また、去年のマラソン大会では、「ビリでもいい。走りたい。」と、言い出したのです。妹には、ぼくにはない強い精神力^{せいしんりよく}があるんだなと感じました。障がいがあるからできないとあきらめるのではなく、自分にできることを精^{せい}いっぱいやろうという強さや勇気を、妹から教えてもらったと思います。

妹は去年、今年と手術をしたので、この2年間ぼくの家族はどこへも行けませんでしたが、手術の後で遠くまで歩くことができない妹のことを考えると、ぼくもがまんしなくちゃと思います。だれより、夏休みに外へ出られないでくやしがっているのは妹のはずです。

2学期が始まると妹は、松葉づえと車いすの生活です。母は「ろうかは車いす^{いどう}で移動したほうがいいよ。」というのですが、妹は「松葉づえで歩けるように練習するからだいじょうぶ。」とがんばっています。これからも、ぼくは、妹の足が一日でも早く治るよう^{いん}えんしたいと思うし、妹のようにくじけない強い心でがんばります。



障がいのあるお友だちの学習や訓練の様子からどんなことを学びましたか。感想を書きましょう。

自立をめざして

障がいのある人たちが、将来、社会に出て、自立していけるように、仕事に必要な技術を学んだり、社会生活の仕方の訓練にはげんでいます。

障がいのある人たちを支援している人のお話

しんけんに取り組める仕事があり、働いて得たお金で生活を楽しめるといことが幸せの基本です。障がいのある人にとってもそのことは変わりません。

大分市にはたくさんの福祉施設があります。そこでは、自立に向けて仕事の仕方を学んだり、社会生活をするために必要な訓練を受けたりしている障がい者がたくさんいます。しかし、自立して生活していくことは決してたやすいことではありません。本人の努力とともに、周りの人たちの温かい理解と適切な支援が大切です。

(大分市手をつなぐ育成会会長)

元気に働く人々

障がいを乗り越えて、明るく力強く生活している人がたくさんいます。



●障がいを乗り越えて、おいしいパンを作っています。
(障害福祉サービス事業所「ペパーミント」のみなさん)



●左腕だけでも毎日仕事にがんばっています。

3 共に歩む

障害者週間

12月3日から12月9日までの1週間を「障害者週間」と定めています。わたしたち一人ひとりが障がいのある人に対する理解をさらに深めるとともに、障がいのある人が社会生活に積極的に参加する気持ちを高めることを目的としています。



●輪い笑いフェスタ! 大分市福祉のつどい

障害者差別解消法の施行

障がいのある人もない人も分け隔てなく、お互いに人格と個性を尊重し合いながら共生できる社会をつくることを目的として、2016年に「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」(通称：障害者差別解消法)が制定されました。この法律では、国や県・市町村などの行政機関や民間事業者が、障がいを理由とした差別をなくすための措置を定め、それを実施することが規定されています。

全国障害者スポーツ大会



●障がいを乗り越え激しいスポーツに挑戦する車いすバスケットボールの選手たち

「全国障害者スポーツ大会」は、障がいのある選手が競技等を通じ、スポーツの楽しさを体験し、多くの人々が障がいのある人に対する理解を深めることによって障がいがある人の社会参加が促進されることを目的とする障がい者スポーツの祭典です。

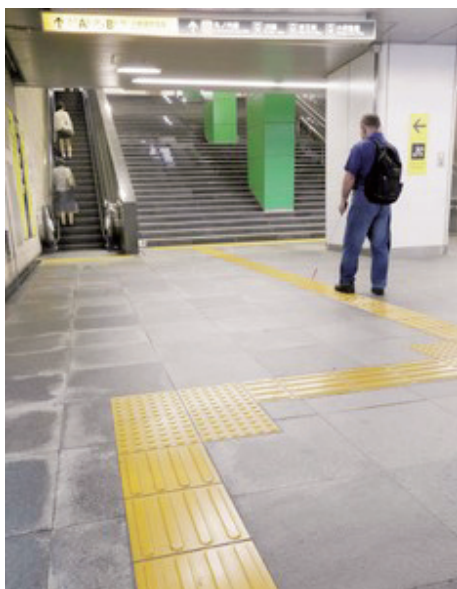
平成13年から国民体育大会(国民スポーツ大会)の開催が都道府県で行われています。平成20年は大分県で開催されました。令和8年度の大会は、青森県で開催されます。

まちのなかにやさしさが

わたしたちが住んでいる大分市では、障しょうがいのある人たちが生活しやすいようにいろいろなくふうがされています。

この工夫はバリアフリー（障しょうがいのある人が使いやすいようにさまたげとなるものを取り除のぞこうとする考え方）やユニバーサルデザイン（障しょうがいのある人をはじめとして、だれにでも使いやすいように物や建物を作ろうとする考え方）によって行われています。

●点字ブロック



点字ブロックは、2種類あるよ。細長いのは、進む方向を示しているんだよ。



丸いブロックは注意や警告けいこくを示しているのよ、ここで一度止まって次の行動に移るんだよ。



●点字案内表示



●エレベーターの行き先を点字で表示しています。

●音きょう式信号機

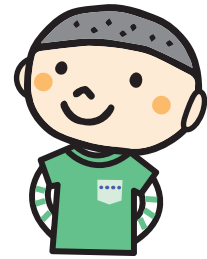


●曲や音で進む方向や信号の変わったことを知らせます。

●多目的トイレ（バリアフリートイレ）



車いすが自由に動かせるように広くしているね。手すりも付いていて使いやすくしているよ。入口のドアがスライド式になっているよ。



●障がい者や赤ちゃんといっしょの人などが使うのに便利です。

●エレベーター



エレベーターの中の鏡は、車いす^おで後ろ向きに降りても危^{あぶ}なくないように付いているんだよ。



●車いす用スロープ



●低いカウンター（市役所）



●車イスのまま書類を書くことができます。

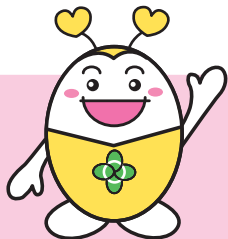
次のようなシンボルマークを見かけたことはありませんか。



障がいのある人が利用しやすい建物や施設を示すマークです。



目に障がいのある人が利用しやすくするために、注意をうながすマークです。



あなたの校区には、障がいのある人たちが生活しやすいようにくふうされたものがあるでしょうか。見つけたものを書きましょう。

見つけたもの	見つけた場所	生活をしやすい工夫

4 わたしたちにできること

1 わたしも大切 あなたも大切

人間らしく生きるために

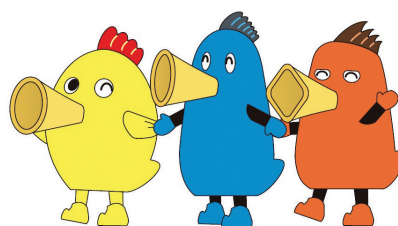
すべての人間は、生まれながらにして自由・平等であり、人間らしく生きる権利けんりをもっています。したがって、障がいのある人もない人も、高齢こうれい者しゃであっても子どもであっても、一人ひとりが尊重そんちょうされなければいけません。

一人ひとりを尊重するという事は、わたしたち一人ひとりが、自分の大切さとともに他の人の大切さを認めていくことです。

※「おおいた人権フェスティバル」では、子どもから大人まで様々な年代の市民が参加交流できる啓発活動、人権の大切さを考える講演会や演劇、人権作品コンクールなどを行っています。



●おおいた人権フェスティバル



大分市人権イメージキャラクター「キズナーズ」

人と人とのつながりを

あなたは、学校で困こまっている友だちがいたら、どうしますか。きっと声をかけ、何かできることはないかを一緒に考えると思います。

もし、地域で困こまっている人がいたら、学校で友だちに声をかけるように、進んで声をかけ、何かできることがないかを一緒に考えると、地域の人とのつながりも深まっています。

相手の立場に立って

自分にとっては特に気にならないことでも、相手にとっては言われたくないことや話したくないことがあります。

また、「障がいのある人は、かわいそうな人だ」と決めつけた見方をしたり、「高齢者は、あまり出歩かず、家にいた方がいい」と自分の考えを相手におしついたりすると、相手を傷つけてしまうことがあります。

人と人がつながるためには、相手の立場に立って考えることが大切です。



●人権啓発センター（ヒューレおおいた）での
妊婦擬似体験活動



●人権啓発センター（ヒューレおおいた）での
高齢者擬似体験活動

自分のこととして

だれもが年をとり、いずれは高齢者になります。また、だれもが生活の中で車いすやつえなどを必要とする可能性^{かのうせい}があります。

わたしたちは、高齢者や障がいのある人にとって住みやすいまちづくりをしていくことを、他人ごとではなく、自分のこととして考えていくことが大切です。

大切なのは行動すること

わたしたちは、一人ひとり個性があり、得意なことや好みなどがちがいますが、大切な存在であることはみんな同じです。

だれもが幸せに暮らせる住みやすいまちづくりを進めていくためには、一人ひとりが、様々な人のために自分にできることを考え、行動することが大切です。



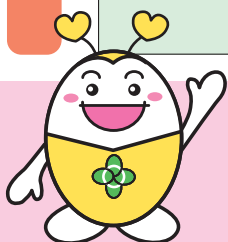
●おおいた人権フェスティバル
人権ポスター優秀作品

心をつなぐ言葉

あいさつ運動



小さな親切運動



みなさんの学校での「あいさつ運動」「小さな親切運動」の取り組みをふり返ってみましょう。

2 ボランティア活動

ボランティアとは

ボランティアとは、住みよい社会をつくるために、自分から進んで社会や人のために役立つ活動をしている人たちのことをいいます。

ボランティア活動は、心と心のふれ合いをめざす思いやりと助け合いを大切にする活動です。やさしい思いやりの気持ちがあれば「だれでも」「いつでも」「どこでも」できる活動です。



●ボランティア活動啓発・普及ポスター

学校でのボランティア活動

多くの学校で、いろいろなボランティア活動が、積極的に行われています。この活動を通して、人と人とのふれ合いを深め、相手の立場や気持ちを理解し、おたがいに協力し合って生きていくことの大切さを学びましょう。



●ボランティア活動をする小学生

そして、ボランティア活動を体験することによって、やさしさや思いやりのある心を育て、学校だけでなく、日ごろの生活の中で、取り組むことができるように努力しましょう。

3 さまざまなボランティア

思いやりのある、温かいまちづくりのために、家庭や地域、会社などで多くの人たちが活動に取り組んでいます。



家庭で

- ・高齢者との手紙交かん
- ・空きかん集め
- ・募金の協力
- ・花のなえづくり
- ・留学生の受け入れ
- ・ベルマーク集め
- ・書きそんじのはがき、使用済み切手、ペットボトルキャップ集めなど

地域で

- ・高齢者訪問
- ・交通安全のための活動
- ・地域の人々との交流
- ・あいさつ運動
- ・清掃活動
- ・空きかん集め
- ・子ども会や敬老会の手助け
- ・地域の伝統文化、郷土芸能の伝承など
- ・登下校時の見守りパトロール

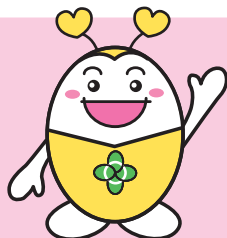
ボランティア活動の輪

施設で

- ・高齢者の話し相手
- ・清掃活動
- ・施設行事への参加
- ・身の回りの手助けなど
- ・演劇や歌などでの訪問

会社などで

- ・通院など的高齢者の送げい
- ・施設内の水道や電気などの点検活動
- ・地域行事のお手伝い
- ・国際援助のための物資集め
- ・理容美容サービスの提供
- ・地球環境保護活動
- ・講演会や演奏会、美術展などの開催



わたしたちのまちでは、たくさんの方がさまざまな所でボランティア活動をしています。上の表を見て、参加したことのあるもの、見たり聞いたりしたことのある活動について書いてみましょう。

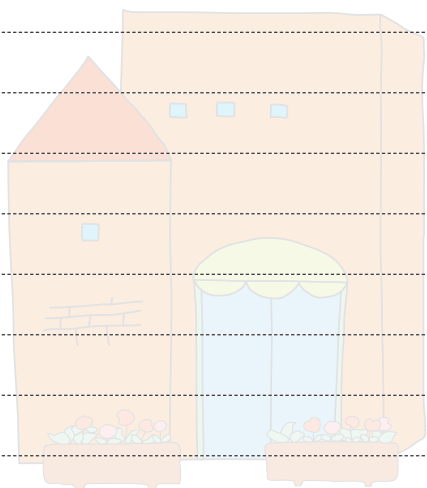
参加したことのある活動	
見たり聞いたりしたことのある活動	

4 わたしたちもやってみよう

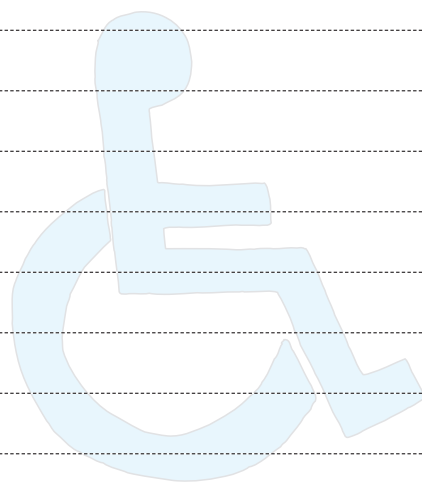
ボランティア活動の輪は、家庭や地域ちいきでずいぶん広がっています。その活動内容もさまざまです。そのどれもが、みんなの幸せや、明るく住みやすいまちづくりを願って活動しています。

自分で取り組めそうな活動を見つけて書いてみましょう。後で、その活動をしたときの様子や気持ちも書きましょう。

●きれいなまちに



●しょう 障がいのある人に



●手話

手・指・体を使って表現する耳に障がいのある人のための言葉です。

わたしと

おともだちになりましょう

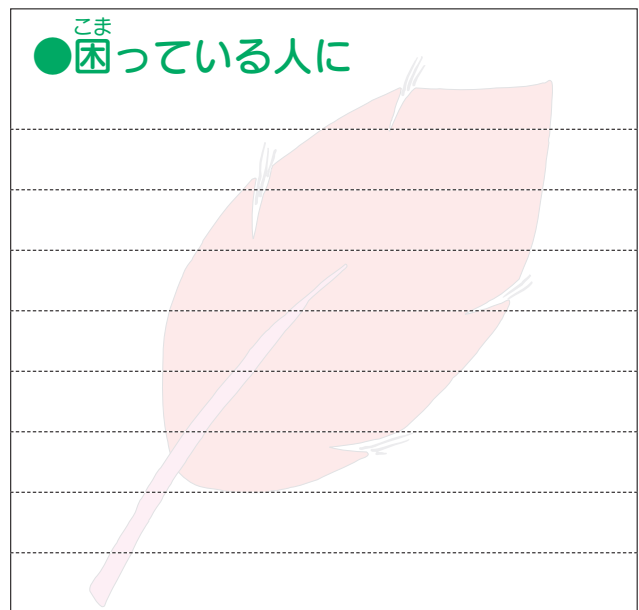
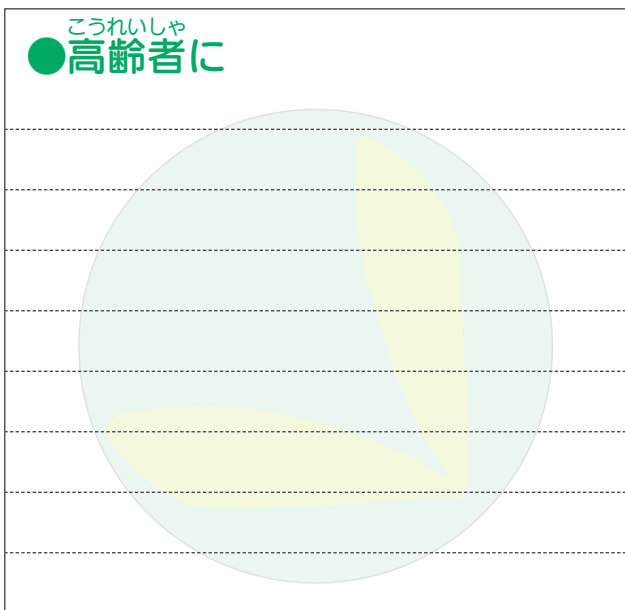
よろしく

お願いします



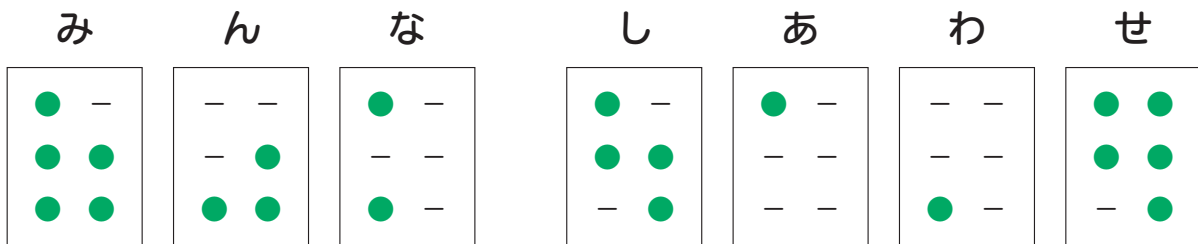
ボランティア活動の心構え

- ① まず、あなたの身の回りの気づいたことからやってみましょう。
- ② 相手は何を求めているか、相手の気持ちになってみましょう。
- ③ 無理をせず、自分の生活のリズムに合わせてみましょう。
- ④ たくさんのことを学んで、自分自身を高めていきましょう。



● 点字

たて3こ、横2この6この点を1ますとして、ふくらみの点の組み合わせを指先で読み取る、目に障がいのある人のための文字です。



5 福祉ってなんだろう

1 福祉の仕組み

みんながより幸せに暮らしていけるように、国や県・市町村では、いろいろな福祉団体や福祉施設、地域の人々と力を合わせて、福祉のまちづくりを進めています。

また地域みんなが支え合って、安心して暮らしていけるよう支援します。

日本国憲法第25条

すべて国民は、健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する。

国は、すべての生活部面について、社会福祉、社会保障及び公衆衛生の向上及び増進に努めなければならない。



高齢者に

いつまでも豊かに安心して暮らせるように、必要な支援をします。



地域住民
ボランティア等



子どもに

心身ともにすこやかに育つように、必要な支援をします。



保育士

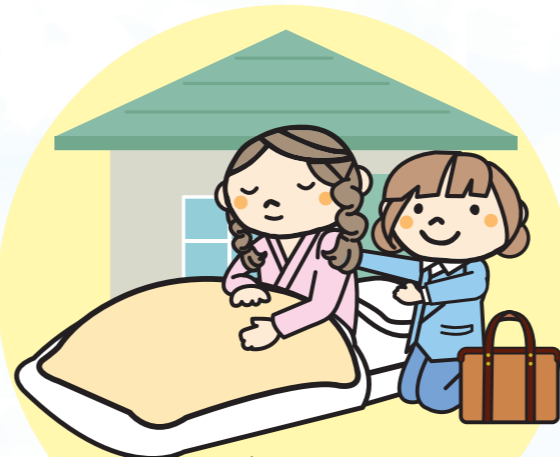


ホームヘルパー



体に障がいのある人に

障がいを乗り越えて、安心して生活できるように、必要な支援をします。



生活に困っている人に

自分の力で生活できるように、必要な生活費などの支援をします。



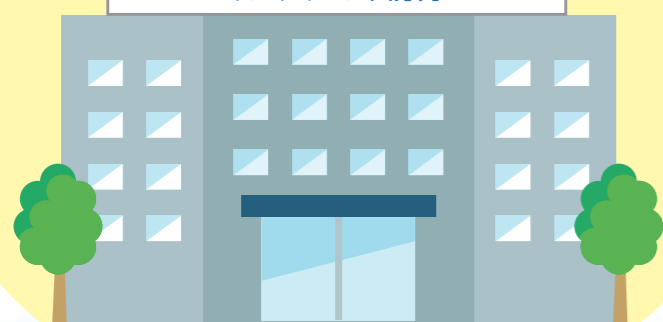
ひとり親家庭に

母と子、父と子が安心して生活できるように、必要な支援をします。



民生委員
児童委員

しゃかいふくしきょうぎかい
大分市社会福祉協議会
ホルトホール大分内



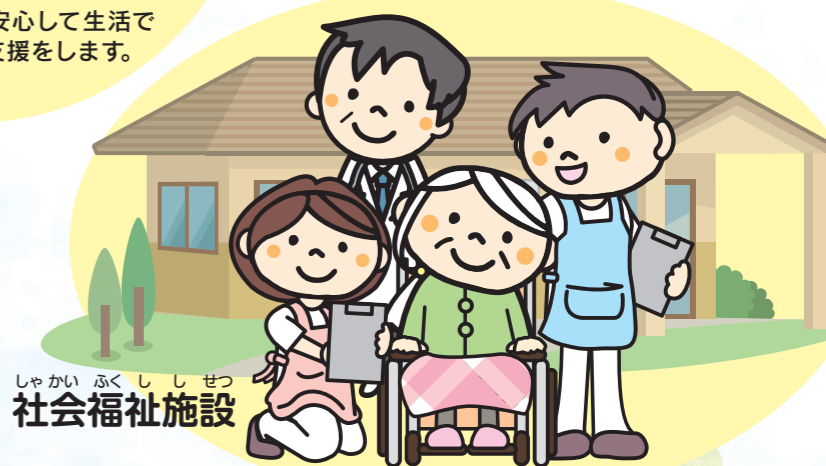
※社会福祉の仕事をする民間の団体です。

大分市役所

ふくしじむしょ
福祉事務所



ケースワーカー



しゃかいふくししせつ
社会福祉施設

どんなことをしているか、イラストを見て、調べてみましょう



2 福祉事務所の仕事



福祉事務所は、どんな仕事をしているのですか？

福祉事務所の人のお話



県や市で、福祉の仕事をしているところを福祉事務所といいます。

福祉事務所では、子どもがすこやかに育つようにしたり、高齢者や体に障がいのある人たちの生活を高めたり、困っている人たちの手助けをしたりするなど、福祉サービスが必要な人の支援をしています。また、安心して生活できるように、いろいろな相談も受けています。

仕事の内容

① 高齢者への支援

介護かいごについての相談や元気な高齢者に生きがいを感じてもらうための場ばを提供ていきょうしています。



●ふれあいサロン



●福祉相談

●障がい者に必要な器具

② 障がいのある人への支援

障がいのある人に、障害者手帳の交付の手続きをしています。

また、必要な器具を買うときに、費用のえん助をしたりしています。

歩くことに障がいのある人

・車いすや義肢（人工の足）など

目に障がいのある人

・安全つえ、めがね、点字器など

耳に障がいのある人

・補聴器

③ 子どもがすこやかに育つための支援



●保育所（園）



●こどもルーム



④ お母さんやお父さんのいない家庭への支援

⑤ 生活に困っている人たちのための支援

⑥ 災害にさいがいあった人たちのための仕事や福祉についての相談

みんなが安心して
幸せに生活できる
ようにいろんな
ことをして
いる所なん
だね。



3 社会福祉協議会の仕事

社会福祉協議会の人のお話

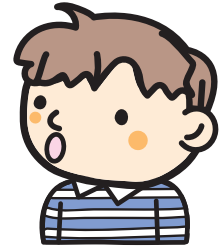


社会福祉協議会は地域の^{ちいき}人々の協力によって、国・県・市町村では手の届きにくい住民一人ひとりの福祉の問題が少しでも解決できる

ように計画を立てたり、ボランティア活動を広げたりするなどいろんな活動を行っています。一人では解決できないことでも、地域みんなが力を合わせれば、だれもが安心して住みよい、心のふれ合うまちになっていくと思います。

また、社会福祉協議会は民間の団体で、その事業はみなさんからの^{きふきん}寄付金などで行っています。

社会福祉協議会は、どんな仕事をしているのですか？



※「社会福祉協議会」を略して「社協^{しゃきょう}」と呼ぶことがあります。

仕事の内容

① 福祉の輪を広げるための取り組み

地域でかかえているいろいろな福祉の問題について、調査^{ちようさ}をしたり、みんなでお話し合ったりして、その解決に向けた取り組みを支援しています。



●校区での話し合いのようす

また、福祉サービスの内容や地域での福祉活動の様子の様子、福祉活動へのみんなの参加をすすめる活動なども行っています。



●「おおいた市社協だより」

② ボランティア活動を広げていくための取り組み

ボランティアをしたい、お願いしたいといった相談に応じ、ボランティア活動につなげています。また、ボランティア体験や朗読・点訳・脳トレボランティア養成講座、災害ボランティア講座などを行い、ボランティアに関する知識を広めています。



●災害ボランティア活動



●点訳ボランティア養成講座

③ 地域の人が行う、助け合い・ふれ合い活動を広げていくための取り組み

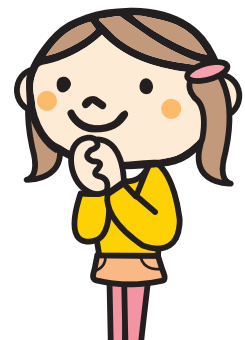
高齢者や障がいのある人、小さな子どもたちが安心して暮らせるよう、地域の人が見守ったり声をかけ合って助け合ったりする活動を広げていきます。

また、みんなのふれ合い・交流を深めるための活動も広げていきます。

④ 困りごとの相談

仕事や暮らしの中での色々な困りごとの相談に対して、解決に向けた支援をします。

たくさんの方が協力し合って、安心して住みよいまちになっていくんだね。



⑤ 生活に困っている人への支援

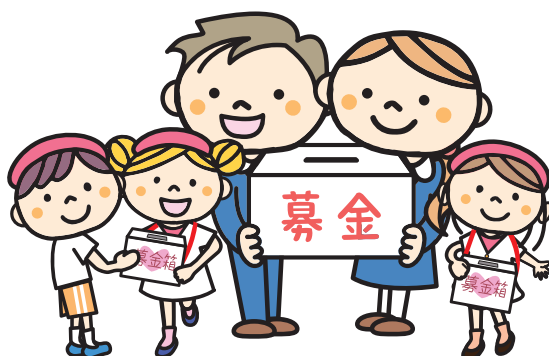
生活に困っている人へお金を貸したりすることにより、安定した生活が送れるよう支援します。

4 福祉を支える募金活動

市民の一人ひとりにも福祉のまちづくりに参加してもらうために募金運動が行われています。

赤い羽根共同募金

赤い羽根共同募金は、毎年10月1日から全国いっせいに行われる助け合い運動です。大分市でも、自治会長や民生委員・児童委員をはじめ多くの市民のみなさんが募金活動に協力しています。



●街頭募金

赤い羽根共同募金の使われ方

高齢者の
幸せのために!

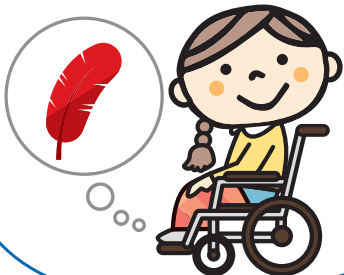


子どもたちの
幸せのために!



令和6年度
大分県内の募金額 **1億3,333万円**

体に障しょうがいのある
人の幸せのために!



お父さんや
お母さんの
いない家庭の
幸せの
ために!



歳末たすけあい募金

歳末たすけあい募金は、みんなが明るいお正月をむかえられるようにと始められた募金で、毎年12月1日から行われるたすけあい運動です。

わたしたちも、児童会を中心に全校で取り組んでいます。

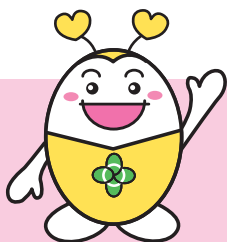
募金で集まったお金は、福祉施設で生活している人やひとり暮らしの高齢者への支援などのために使われています。



その他の募金

福祉活動を支える募金活動には、寄付金つきお年玉年賀はがきや発展途上国の子どもたちをえん助するためのユニセフ募金などがあります。

また、台風や地震などで災害にあった人々を支援するための義援金もあります。



募金について、わたしたちはどのような気持ちで取り組みればよいのでしょうか。話し合ってみましょう。

あとがき

わたしたち人間は、一人では生きていけません。

共に生きるということは、みんなの幸せを願い、みんなで助け合っ
て生きていくということです。障がいがあるとかないとか、男女、
国せきのちがいがあるということなどで差別されることがあつては
絶対にならないのです。

すべての人の命は尊いものです。すべての人が幸せに生きる権利
をもっていて、だれもそれをさまたげることにはできないのです。差
別に気がつかなかったり、知らないうちに周りの人の人権を傷つけ
たり、気づかないふりをしたりすることは、「幸せに生きたい」と
いう多くの人の思いや権利をどんなにうばっていることなのか考え
ていかなければなりません。

大切なことは、「共に感じる心」「思いやりの心」「助け合う心」
をみんながもつことです。一人ひとりの苦しみやなやみを、みんな
で助け合い「共に生きる」社会にしようとする気持ち、それが『ふ
くしの心』なのです。

明るい社会を築きあげていくために、この福祉副読本『ふくしの
心』を活用し、家庭や学校、地域で「福祉の輪」がいつそう大きく
広がっていくことを願っています。



編集 大 分 市 福 祉 保 健 部
大 分 市 福 祉 事 務 所
大 分 市 教 育 委 員 会
発行 大 分 市 社 会 福 祉 協 議 会
〒 870-0839 大 分 市 金 池 南 1 丁 目 5 番 1 号
J:COM ホルトホール大分4階
☎ (097) 547 - 8154
印刷 令和8年4月1日
い づ み 印 刷 株 式 会 社